

木曽地域人口減少対策検討会の 取組経過に関する補助資料

令和7年3月24日（月）
木曽地域振興局

1 取組経過

人口減少を前提とした木曽の地域づくりの検討等を目的に**木曽地域人口減少対策検討会**を設置

- ・ **地域住民との連携体制を強化**する観点から、地域振興局長が指名した者及び町村・木曽広域連合から推薦された者（計14名）を検討会の委員に指名
- ・ 以下のとおり活動を実施

7月29日 第1回検討会 [現状把握]

8月 8日 第2回検討会 [知事との意見交換]

9月17日 第3回検討会 [課題の整理]

10月15日 第4回検討会 [具体的な取組の検討]

11月19日 第5回検討会 [具体的な取組の深掘り]

12月14日 第6回検討会 [郡民との意見交換会]

1月21日 第7回検討会 [住民団体立上げ検討]

2 提案の位置づけ

信州未来共創戦略
～みんなでつくる2050年のNAGANO～

木曽地域人口減少対策に係る提案

木曽地域人口減少対策検討会

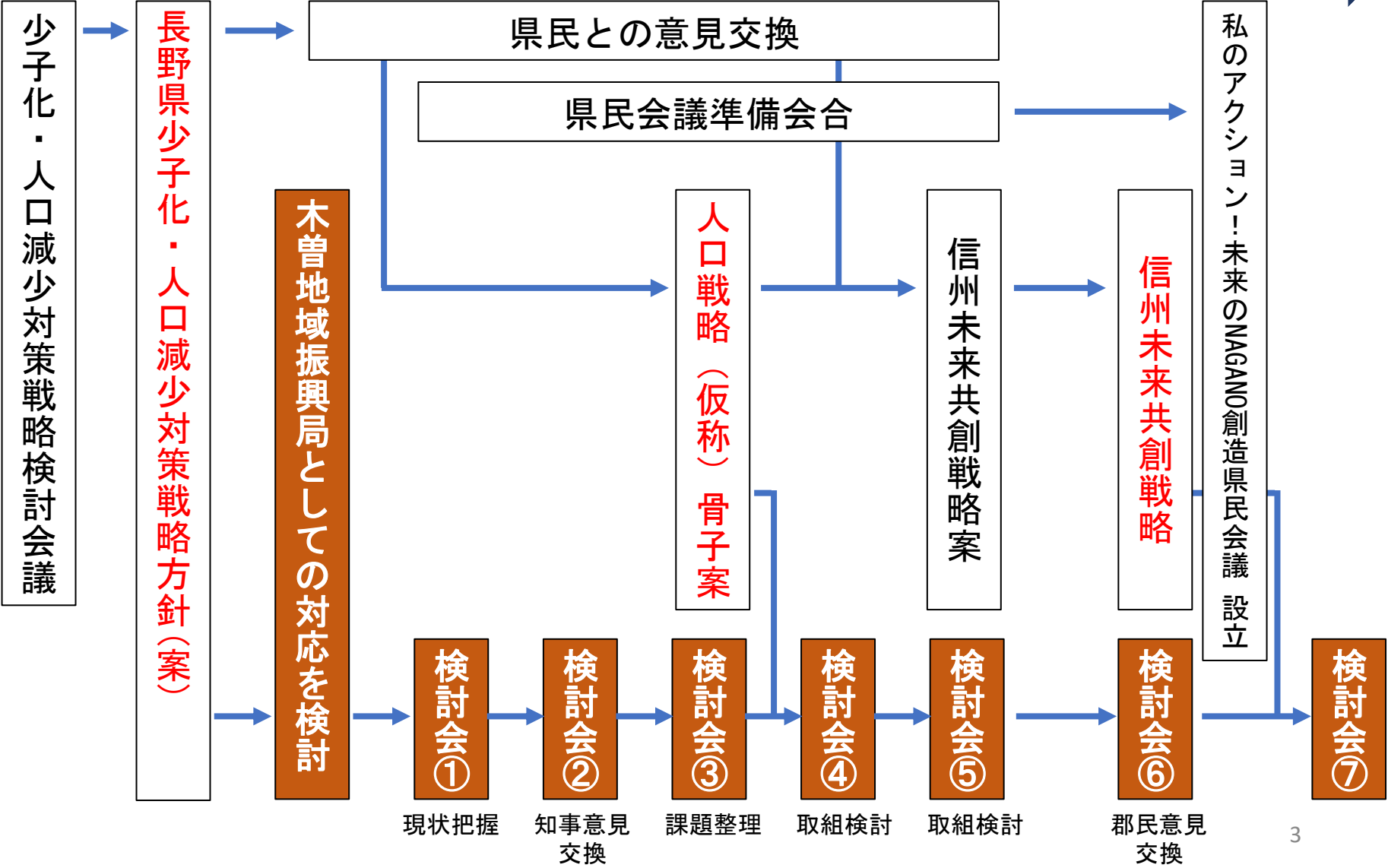
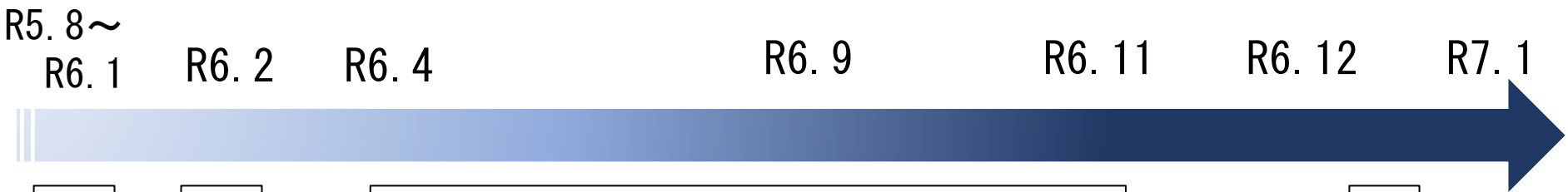
県・町村・企業・地域などが
手を取り合って実現していく

（ソーシャルキャピタルの実現）

誰もが

働きやすい
職場環境

子育てしやすい
生活環境





策定趣旨

- ・ 急激な人口減少下において、少子化・人口減少への対応は、最優先課題としてあらゆる施策を総動員して対策を講じていく必要がある
- ・ 本戦略方針は、しあわせ信州創造プラン3.0を基本とし、県民の希望を叶える少子化対策と人口減少を前提とした社会づくりに向けた取組をさらに深化・加速化するもの

基本理念

- ・ 若者の結婚や子どもを持ちたいといった希望の実現により少子化の流れを変え、急速に進む人口減少社会への適応にも併せて取り組む
- ・ 今を生きる私たちの世代も、未来を生きる将来世代も、しあわせを実感できる真にゆたかな社会の実現を目指す

基本目標

1 人口減少スピードの「緩和」

- ・ 結婚・出産を含む女性・若者の希望実現を最大限支援することにより、急激な少子化に歯止めをかけ、総人口を早期に定常化する。

2 人口減少社会への「適応」

- ・ 多様な人材の労働参加や労働生産性の向上、DXや国際化の推進等により、人口減少期でもゆたかで活力ある経済社会を構築する。

取組の柱

1 急激な少子化に歯止めをかけ、総人口を早期に定常化する

(1) 若い世代の実質所得を引き上げる

- 若者・女性の賃金引き上げや生産性向上の取組支援
- 若者の経済的負担の軽減、同一労働同一賃金等の産業界への働きかけ など

(2) 子育てと仕事の両立を当たり前にする

- 企業トップの意識改革を促し、女性が自分らしく働ける環境づくりを推進
- 仕事と育児の両立を支援する企業の応援、各種認証制度の活用・取得促進 など

(3) 出産・子育て支援を強化する

- 子育て家庭の経済的負担を軽減するための支援策を拡充
- 子どもや子育て家庭を支援する様々な個人・団体（こども食堂等）の支援 など

(4) 若者の出会いと結婚を応援する

- メタバース婚活等による出会いの場の創出 など

(5) 魅力ある環境と一人ひとりに合った学びで子育て世代をひきつける

- 一人ひとりに合った学びを自ら選択できる実践校の設置
- 豊かな自然環境と多様な地域資源を活用した「信州やまほいく」の普及 など

(6) 女性・若者をひきつける仕事とまちを創造する

- 信州を若者が集う拠点にする取組の促進、女性・若者等をひきつける住まい環境整備 など

2 人口減少期でもゆたかで活力ある経済社会を構築する

【人材確保】

(1) 働きたい全ての県民の就労を支援する

- 高齢者等の能力や経験を最大限発揮できる就労環境整備
- 従来の雇用形態にとらわれない働き方「副業・兼業」「一人多役」の促進 など

(2) 分野ごとに人材確保策を強化する

- 「農林業」「医療・福祉」分野等への更なる支援の充実 など

(3) 産業や暮らしでのデジタル化、ロボット化を徹底的に推進する

- 事業者等のデジタル化支援、県・市町村による全県的なDX推進体制の強化 など

(4) 外国人が暮らしやすく、働きやすい環境をつくる

- 日本語教育の充実、安心して医療が受けられる体制づくり、企業への受入れ支援 など

【社会経済活力の向上】

(5) 強靱で健全な経済構造へ転換する

- 生産性向上の促進、成長期待分野への事業展開等の支援、事業承継・引継ぎ支援 など

(6) 人口規模にふさわしい社会システムを構築する

- 学校等公共施設の再編、行政の主体的関与による交通ネットワークの確保・維持 など

今後の進め方

- ・ 今後、本方針（本年3月策定予定）を具体化し、県、市町村、産業界などが一丸となって主体的に取り組む戦略を本年秋頃に取りまとめる予定
- ・ 戦略の取りまとめに向けて、女性・若者をはじめとする県民や産業界の皆様と意見交換を行うほか、パブリックコメントを実施
- ・ 少子化・人口減少対策は県民あげて取り組むことが必要であることから、それに相応しい推進体制を検討

VI オール信州で取り組むこと

戦略方針案 (2024.2発表)

1 人口減少スピードの「緩和」

急激な少子化に歯止めをかけ、総人口を早期に定常化する

2 人口減少社会への「適応」

人口減少期でもゆたかで活力ある経済社会を構築する

緩和にウェルビーイングの概念（個を重視）を入れ、本県の特徴を前面的に打ち出し！

オール信州で取り組む！

不明確であった適応策を明確化！

戦略骨子案

1 人口減少の事実の共有と価値観の転換

・県民会議による価値観転換の方向づけと、取組への呼びかけ

2 個性きわ立つ信州づくりを通じた急激な人口減少の緩和

2-1

自分らしく活躍できる地域・職場をつくる ～県民全てのウェルビーイングを向上～

- ①働き方を変えて子育てをみんなで当たり前にしよう
- ②性別による固定的役割分担意識をみんなでなくそう
- ③若者の社会参画を応援し、活動をサポートしよう（結婚支援を含む）
- ④子ども・子育て家庭をみんなで支えよう（出産・子育て支援を含む）
- ⑤外国人が活躍し、みんなが暮らしやすい社会を実現しよう
- ⑥お互いの人権を共に尊重しよう

2-2

暮らし、つながる仲間を増やす ～移住・多地域居住の促進と関係人口拡大～

2-3

世界に通じる新しい学びを共につくる ～教育県「長野」から日本の学びを変革～

3 人口減少社会に適応した「ゆたかな社会」の実現

3-1

楽しく快適なまち・むらをつくる ～県土グランドデザインの策定と実行～

3-2

人材・担い手不足を乗り越える ～徹底的なDXと人材・担い手の育成・確保～

3-3

世界の知見と成長を取り込む ～産業のグローバル化・高付加価値化～

3-4

持続可能な産業・行政をつくる ～規模拡大、広域連携、業務の共同化～

3-5

生きがいあふれる人生を過ごす

～一人多役の促進とソーシャルセクター（社会課題解決の担い手）の活性化～



信州未来共創戦略～みんなでつくる2050年のNAGANO～のポイント

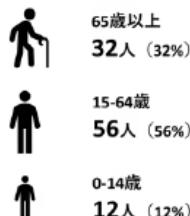
7がけ社会がやってくる！？

2050年の長野県は・・・

- 人口はピーク時から約3割減（159万人）
- ただちに出生率が回復しても、しばらく人口減少は続く
- 高齢化率は4割超
- 現在、出生数は過去最少を更新（少子化が加速）。加えて、若者（特に女性）は転出超過が深刻

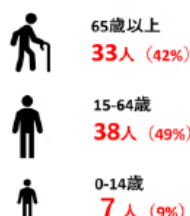
2020年

長野県が100人の村とすると...



2050年

総人口が78人の村となり...



そうなる・・・

- 産業の成長力低下⇒賃金減少!?
- 将来世代の医療・介護等の負担増!?
- 学校や公共交通、スーパー等がなくなる!?
- など身の回りに影響

何が原因？

- 閉鎖的な社会で若者が生きづらい！
- 地元で働きたい職場がない！
- 子育てが大変！ など

ピンチをチャンスに！

- 人材不足は誰もが活躍できる可能性！
- AI・ロボットで暮らしを豊かに！
- 新たなビジネスチャンスに！
- まちの再生を促すきっかけに！

人口減少の事実を共有し、これまでの当たり前を考え直そう！

- 若い人たちが自分らしく、いきいきと活躍している社会
- 性別に関わらず誰もが自分らしく生きられるジェンダー平等の社会
- 「宅配物をコンビニで受け取る」など、少しの我慢をみんなで分かち合う社会 など

行政、企業、地域、県民みんなで取り組む方向性

寛容性



- ✓ 若者や女性の地域での生きづらさ・息苦しさ
- ✓ 女性の意見が反映されないと、地域や企業が選ばれなくなる

⇒若者・女性から選ばれる寛容な社会づくり

- ・若者の社会参画の促進
- ・性別による固定的役割分担の解消
- ・共育でも当たり前な働き方への変革
- ・特色を活かした個性や能力に合った学びなど

移住 # つながり

- ✓ 移住したい県として常にトップクラス
- ✓ 地域の寛容性や相互理解、交流が不可欠

⇒信州の強みを活かした移住・関係人口の増加 ～暮らし、つながる仲間を増やそう～

★県民の皆さんと長野県の未来を考えました！
(約150回、3,000人が参加)

★若者と2050年のありたい姿を考えました！
(HOPE2050若者との県民対話)



「私のアクション！未来のNAGANO創造県民会議」で
みんなで推進していきます！

分散→集住へ

楽しいまち # 便利な交通

- ✓ 中山間地域に加え、都市部でも人口密度低下。生活に必要なサービスも維持困難
- ✓ 若者からは「楽しいまち」や「便利な交通」への期待大

⇒安心・便利で持続可能な生活圏の整備促進 ～県土のグランドデザインを策定・実現しよう～

経営革新

- ✓ これまでの労働集約型ビジネスモデルは維持困難
- ✓ 小規模自治体を中心に職員・財源確保が困難
- ✓ 社会課題解決にソーシャルセクターの役割が重要

⇒変革期を乗り越える経営等の革新

- ・付加価値労働生産性の向上
- ・多様な人材の労働参加、省力化投資
- ・地域課題を様々な主体の共創で解決

木曽地域のめざす姿 豊かな自然と歴史・文化に育まれた「木曽らしい」暮らしを維持する地域づくり

木曽地域の4つの「重点政策」

1 林業・木材産業の振興と 森林資源を活かした 二酸化炭素吸収源の確保

地域材の高付加価値化を目指し、
人材育成・2050ゼロカーボンを進める

取組内容

【林業・木材産業の振興】

- JAS(日本森林規格)工場を核とした地域製材工場の水平連携体制づくりなど、地域材の高付加価値化を推進
- 適切な森林整備(間伐、主伐・再造林、路網整備)を計画的に実施
- 民間建築物への波及効果が高い、公共施設等の木造・木質化による地域材の普及啓発と需要拡大



【林業・木材産業の人材育成】

- 林業大学校、上松技術専門学校、木曽青峰高等学校による3校連携をはじめ、産学官連携を深め、人材の確保や技術の向上等林業・木材産業の後継者対策を推進

【地域資源を活かした自然エネルギーへの転換、 二酸化炭素排出抑制】

- 公共施設等での木質バイオマス利用や木質バイオマス生産施設等の整備を促進
- 農業用水を活用した小水力発電施設の整備を推進

達成目標	指標名	製材品出荷量 木材流通調査(林務部)
	現状	12,396m ³ (2020年)
	目標	15,000m ³ (2026年)

2 木曽らしさを活かした 観光振興

地域の関係者が一体となって木曽路
の魅力を発信し、観光客を増やす

取組内容

【日本遺産を活かした観光地域づくりと 広域観光の推進】

- 「日本遺産」に代表される地域資源の魅力や価値を様々な視点から磨き上げ、発信するとともに、食や工芸など地域文化が体験できる観光地域づくりを促進
- リニア中央新幹線の開業等を見据えた広域観光や地域内の周遊を促す観光誘客を推進



【御嶽山の魅力発信】

- 「御嶽山火山マイスター」と連携し、「御嶽山を知り、火山を理解し、次世代につなげる学びの場」である「御嶽山ビジターセンター」を情報発信拠点として活用
- 御嶽山の優れた自然環境の一層の保護を図るとともに、御嶽山一帯の魅力や価値を発信し、国定公園化を推進

達成目標	指標名	観光地延利用者数 観光地利用者統計調査(観光部)
	現状	155万人(2021年)
	目標	225万人(2027年)

3 地域防災力・減災力の強化

河川・土砂災害、地震などの自然災害への
対策、御嶽山の安全対策を進める

取組内容

【地域の強靱化】

- ハード対策として、河川・砂防・治山・農業関連施設の整備、住宅・建造物の耐震化促進等を推進
- ソフト対策として、ハザードマップ作成支援、防災訓練等を実施



【御嶽山安全対策】

- 「御嶽山ビジターセンター」を活用し、リアルタイムの情報発信や安全登山啓発等のソフト面での対策を強化



達成目標	指標名	地区防災マップ作成地区数 (木曽建設事務所)
	現状	29地区(2021年度)
	目標	44地区(2027年度)

4 人口減少下における 持続可能な地域づくり

安心できる暮らしを確保し、生活・
産業活動基盤の維持、確保を図る

取組内容

【医療】

- 信州大学、信州木曽看護専門学校等との連携による医療従事者の確保や木曽圏域内外の医療連携を推進
- 遠隔診療の導入や医療人材の広域的確保等の取組を支援し、質の高い医療提供体制を確保

【道路、交通】

- 国道19号の整備及び安全対策の促進
- 東西の交流を支える国道256号、国道361号の整備を推進
- 木曽川右岸道路、姥神峠道路の整備を推進
- 「木曽地域公共交通活性化協議会」における地域公共交通についての対策を促進

【産業人材の確保】

- 郡内2高校の生徒等に対して、地域就業を促進
- 木曽の特色ある農業と食文化を次世代に継承していく多様な担い手の確保・育成
- 子どものうちから「木曽らしさ(自然、歴史・文化など)」の学びを促進



【ブランディング等の推進】

- 地域の価値やイメージを高めて定住や移住を促進するなど、地域が一体となったブランディングへの取組
- 中京圏との木曽川上下流交流による地域の活性化
- 「相模」を核に、様々なスポーツ活動やイベント等と連携し、スポーツと健康をキーワードに地域づくりを推進

【広域連携の推進】

- 「木曽広域自立圏連携ビジョン」等に基づき、県、町村、広域連合が連携した取組を推進

達成目標	指標名	移住者数 (企画振興部)
	現状	178人(2017~2021年度累計)
	目標	250人(2023~2027年度累計)

木曽地域人口減少対策検討会の構成

委員（１４名）

事務局員（１６名）

木曽町	山下 卓郎 岩井 航太	手塚 良太 岩井 宏希	
上松町	砂山 右近 二宮 美香		
南木曽町	藤原 清楓 山田 茉央		
木祖村	古畑 恵理 細野 由貴		
王滝村	山下 香織 田中 千央		
大桑村	戸前 寿乃 三瀬町 彰人		
広域連合	—		
振興局	—		
			岩井 宏希
			浅井 翼
			岡田 暁
			上垣外 純 田中 ひかる
			堤 純一
			三瀬町 彰人 松原 龍希
			小嶋 忍
			大日方 明実 逸見 真洋 高根 竜二 西山 由美子 澤邊 翔太 竹澤 祐希乃 坂家 弘樹

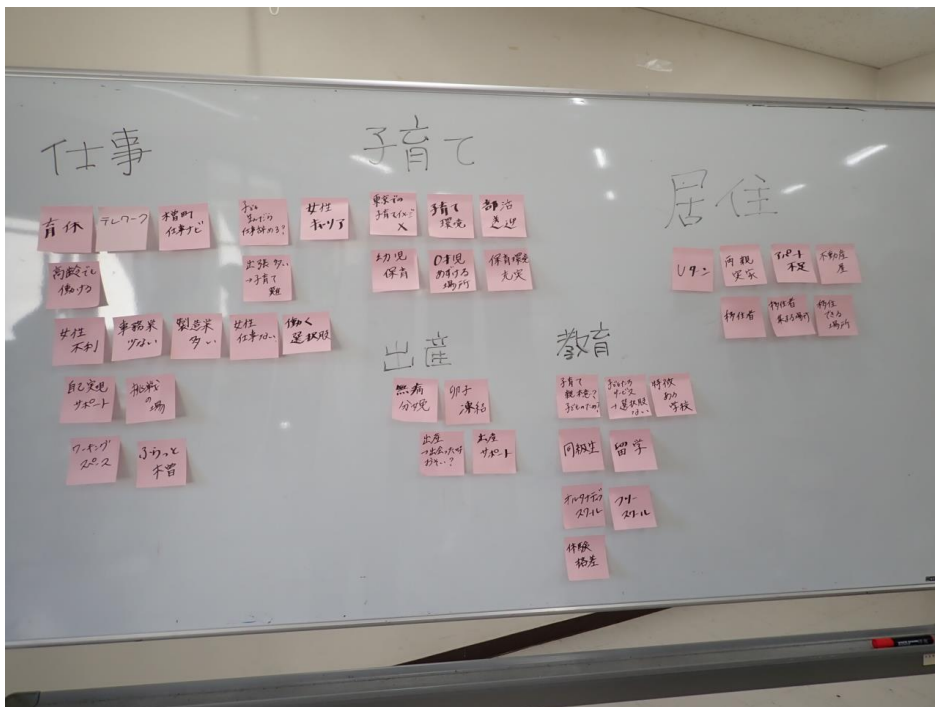
第 1 回検討会 <現状把握>

木曽郡の2050年の人口は2020年から**約50%減**
同様に、高齢化率は**約10ポイント増**（2人に1人は65歳以上）

「誰もが**働きやすい職場環境**」・「誰もが**子育てしやすい生活環境**」
を中心に検討を進めることなどを確認



令和6年7月29日木曽合庁401・402会議室



出席者でブレインストーミング

第2回検討会 <知事との意見交換>

意見交換
のテーマ

「人口減少下における誰もが働きやすい職場環境の実現」
「人口減少下における誰もが子育てしやすい生活環境の実現」



第3回検討会 <課題の整理>

1) 子どもの教育充実

「子育て」を、親視点だけではなく、**子ども視点**からも捉えることが必要！

2) 住環境の充実

良質な住宅ストックの確保と**流通促進**を図ることが必要！

3) 共働き・共育ての推進

意識改革、働きがいの実感、**女性のキャリア形成支援**等が必要！



令和6年9月17日ふらっと木曽（木曽町）



課題を分類

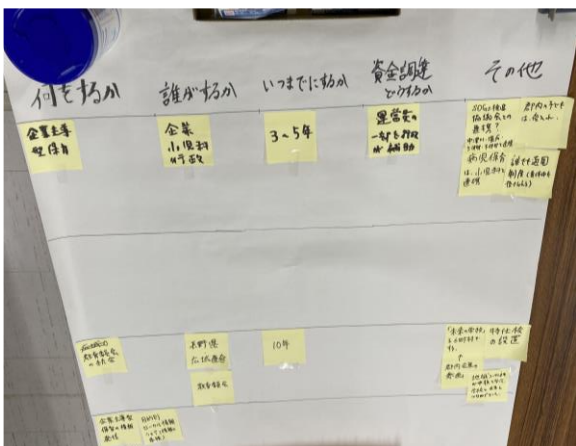
第4・5回検討会 <取組検討>



令和6年10月15日上松町役場会議室



令和6年11月19日大桑村役場会議室



- 自分たちが検討したことを**現実に落とし込む作業**
何を、だれが、いつからするか、財源をどうするか
- 子どもの教育充実、住環境の充実、共働き・共育での推進の**3グループに分けて取組を検討**
- さらに、委員有志による**情報発信検討チーム**を結成

第6回検討会 <郡民との意見交換>

住民自ら人口減少対策に取り組んでいく機運をさらに醸成することを目的に、県や民間の取組と人口減少に関する危機感を共有する場を設定

林業・木材産業の
人材育成

WOW! BASE～若者か
らの提案～

木曽地域人口減少
対策検討会からの
提案（素案）

グループトーク

